

2022年2月期 第1四半期 (2021年3月1日~2021年5月31日)

# 決算説明資料



©2021 スタジオ地図

2021年7月13日(火)



# 2022年2月期 第1四半期 営業概況

	2021年2月期 (2020年3月～5月)	2022年2月期 (2021年3月～5月)	前期比	増減率
営業収入	33,012百万円	<b>57,808百万円</b>	24,796百万円	75.1% ↗
営業利益	2,803百万円	<b>10,518百万円</b>	7,715百万円	275.2% ↗
経常利益	2,891百万円	<b>10,847百万円</b>	7,956百万円	275.2% ↗
親会社株主に帰属する 四半期純利益	218百万円	<b>6,684百万円</b>	6,466百万円	2964.3% ↗

# 2022年2月期 第1四半期 営業概況

## 【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、当社の主力事業への影響は、当第1四半期においても依然、継続しております。

映画事業においては、2度目の緊急事態宣言発出を受けて、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県で、1月9日から4月8日まで、映画館の営業時間短縮やアルコール類の時短販売を行いました。

さらに3度目の緊急事態宣言発出を受けて、4月25日から5月31日までの期間、東京都・大阪府・京都府（5月11日まで）・兵庫県（5月12日以降は土日のみ）の21サイトで臨時休業となりました。休業地域以外のまん延防止等重点措置該当地区においても、営業時間短縮、アルコール類の時短販売、販売座席数の制限等の感染防止対策を施しながら営業活動を続けました。

演劇事業においても、4月28日から5月11日までの期間の公演を中止いたしました。

また、日比谷シャンテ（商業施設）においても4月25日から5月31日まで臨時休業（一部店舗では5月22日から営業再開）いたしました。

## 【第1四半期決算の概況】

映画営業事業において、公開を予定していた作品が相次いで延期となった一方で、3月8日公開『シン・エヴァンゲリオン劇場版』、4月16日公開『名探偵コナン 緋色の弾丸』が大ヒットを記録したことにより、大幅な増収増益。

映画興行事業において、4月から5月にかけて東京・関西圏の映画館が休業したことにより興行収入の落ち込みがあったものの、全劇場休業というより厳しい制約があった前期と比較すれば大幅改善。営業損益は黒字に転換。

映像事業において、「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「ウマ娘 プリティーダービー Season 2」等の「TOHO animation」作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、配信等の多面的展開により、業績を大きく牽引。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、大幅な増収増益を達成。

演劇事業では、期間中の公演の一部中止や払い戻しはあったものの、ほとんどの公演を実施することができ、営業損益は黒字に転換。

不動産事業では、不動産賃貸事業において、日比谷シャンテの臨時休業の実施による賃料の免除や、一時的なテナント入れ替えによる減収があったことや、不動産保守・管理事業において、ホテルや劇場の清掃業務等の受注回復の遅れ等により、全体としてはわずかに減収減益。

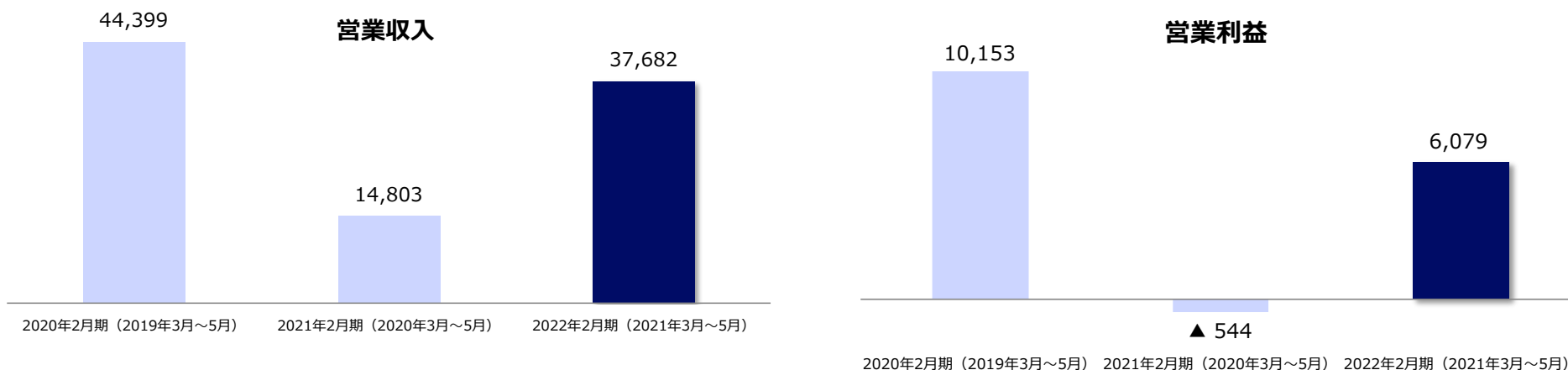
なお、劇場や商業施設等の臨時休業期間中の人件費・借家料・減価償却費等ならびに中止した演劇公演に係る製作費等を「臨時休業による損失」として特別損失に、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金及び国や地方自治体等からの助成金等を「助成金収入」として特別利益に計上しております。

# セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2021年2月期 (2020年3月～5月)	2022年2月期 (2021年3月～5月)	増減率	2021年2月期 (2020年3月～5月)	2022年2月期 (2021年3月～5月)	増減率
<b>①映画事業</b>	14,803	<b>37,682</b>	154.6% ↑	▲ 544	<b>6,079</b>	—
映画営業	3,577	<b>12,321</b>	244.4% ↑	86	<b>2,702</b>	3032.5% ↑
映画興行	3,525	<b>12,879</b>	265.3% ↑	▲ 1,722	<b>295</b>	—
映像事業	7,700	<b>12,481</b>	62.1% ↑	1,092	<b>3,082</b>	182.3% ↑
<b>②演劇事業</b>	674	<b>2,884</b>	327.4% ↑	▲ 710	<b>483</b>	—
<b>③不動産事業</b>	17,076	<b>16,604</b>	-2.8% ↓	5,046	<b>4,922</b>	-2.5% ↓
不動産賃貸	6,964	<b>6,725</b>	-3.4% ↓	3,315	<b>3,136</b>	-5.4% ↓
道路事業	7,606	<b>7,471</b>	-1.8% ↓	1,649	<b>1,570</b>	-4.8% ↓
不動産保守・管理	2,506	<b>2,407</b>	-3.9% ↓	81	<b>215</b>	164.1% ↑
<b>④その他事業</b>	457	<b>636</b>	39.3% ↑	▲ 79	<b>▲ 39</b>	—

(単位:百万円)

# セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、緊急事態宣言の影響で、公開予定だった『映画ドラえもん のび太の宇宙小戦争 2021』をはじめとする6作品を公開延期。一方、前期から公開延期となっていた新作『シン・エヴァンゲリオン劇場版』(興行収入96.3億円)、『名探偵コナン 緋色の弾丸』(同71.9億円)が大ヒットを記録。東京・関西圏の映画館休業の影響が一定程度あるものの、全面休業があった前期から大きく回復し、大幅な増収増益。
- 映画興行事業では、TOHOシネマズにおいて、期首から4月8日にかけて東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県で時短営業やアルコール類の時短販売を実施。3度目の緊急事態宣言により、4月25日から5月31日まで、東京都・大阪府・京都府(5月11日まで)・兵庫県(5月12日以降は土日のみ)の映画館が臨時休業となり、それ以外のエリアにおいても5月12日以降、時短営業等が拡大したが、全面休業があった前期から大きく回復し、営業損益は黒字に転換。
- 映像事業では、パッケージ事業において、TVアニメ「呪術廻戦」「ウマ娘 プリティーダービー Season 2」のセールスが好調。アニメ制作事業において、TVアニメ「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」等の商品化権収入が大きく伸長。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて『名探偵コナン 緋色の弾丸』が好調だった他、「TOHO animation STORE」(ECサイト)における「呪術廻戦」の関連商品販売が増加。映像事業全体として大幅な増収増益。

# 当第1四半期の主要稼働作品状況等

東宝(株)配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開日	興行収入
シン・エヴァンゲリオン劇場版	3月8日	96.3
名探偵コナン 緋色の弾丸	4月16日	71.9
映画 モンスターハンター	3月26日	12.3
奥様は、取り扱い注意	3月19日	11.7

【ご参考】

劇場版「鬼滅の刃」無限列車編	2020年10月16日	401.4
----------------	-------------	-------

（興行収入は2021年6月末日時点）

公開を延期した第1四半期公開予定作品

作品名	当初の予定	新公開日
映画ドラえもん のび太の宇宙小戦争 2021	3月5日	調整中
映画クレヨンしんちゃん 謎メキ！花の天カス学園	4月23日	7月30日
アーヤと魔女	4月29日	8月27日
ヒノマルソウル～舞台裏の英雄たち～	5月7日	6月18日
ゴジラvsキング	5月14日	7月2日
100日間生きたワニ	5月28日	7月9日

# 当第1四半期におけるTOHOシネマズの営業状況

## 【臨時休業】

所在地	サイト数	期間
東京都 大阪府 京都府 (5月11日まで) 兵庫県 (5月12日以降は土日休業)	21	4月25日～5月31日

## 【時短営業】

所在地	サイト数	期間
東京都 埼玉県 千葉県 神奈川県	25	3月1日～4月8日
京都府	1	4月15日～4月24日
北海道 埼玉県 千葉県 神奈川県 愛知県 岐阜県 京都府 兵庫県 福岡県	23	5月12日～5月31日
岡山県 広島県 熊本県 (一部)	4	5月16日～5月31日

# 当第1四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：円)

	2021年 (133期)	2020年 (132期)	前年比
3月	10,122,378,904	1,202,249,004	842.0%
4月	8,940,877,900	138,867,250	6438.4%
5月	3,087,028,450	68,957,350	4476.7%
<b>1Q</b>	<b>22,150,285,254</b>	<b>1,410,073,604</b>	<b>1570.9%</b>

※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

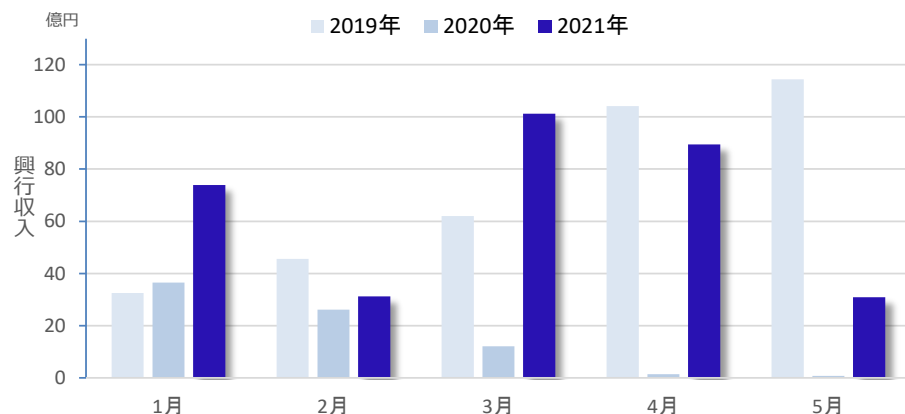
映画興行事業 興行収入推移

(単位：円)

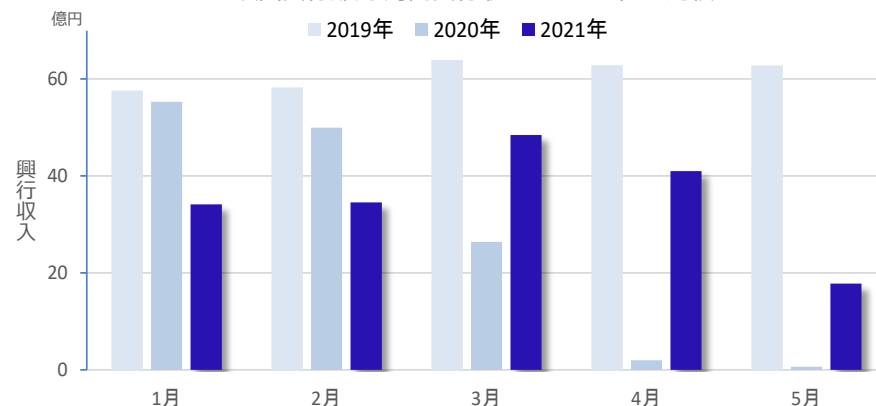
	2021年 (133期)	2020年 (132期)	前年比
3月	4,842,139,643	2,637,484,812	183.6%
4月	4,099,777,614	197,832,004	2072.4%
5月	1,775,416,231	59,131,870	3002.5%
<b>1Q</b>	<b>10,717,333,488</b>	<b>2,894,448,686</b>	<b>370.3%</b>

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）

映画営業部門 月間興行収入の過去2年との比較



映画興行部門 月間興行収入の過去2年との比較







「ウマ娘 プリティーダービー Season 2」

(「ウマ箱2」アニメ第2期のBlu-ray BOX商品)

- 第1コーナー 2021年5月26日発売
- 第2コーナー 2021年6月23日発売
- 第3コーナー 2021年7月21日発売
- 第4コーナー 2021年8月18日発売

- (TVアニメ)
- Season 1 2018年4月から6月放送
  - Season 2 2021年1月から3月放送



『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE  
ワールドヒーローズ ミッション』

2014年7月「週刊少年ジャンプ」連載開始  
シリーズ世界累計発行部数 5,000万部突破 (7月1日時点)

最新作 2021年 8月6日公開！  
1作目 2018年 8月3日公開 興行収入17.2億円  
2作目 2019年12月20日公開 興行収入17.9億円

(TVアニメ)  
2021年3月から第5期が絶賛放送中



『劇場版 呪術廻戦 0』

待望の映画化、2021年12月24日公開！

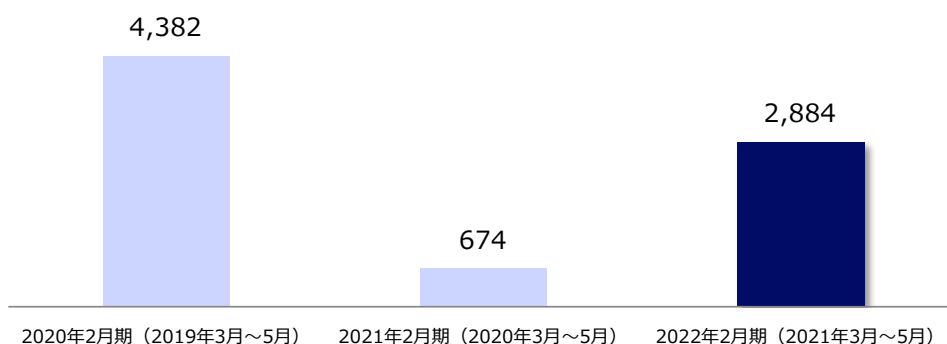
2018年3月「週刊少年ジャンプ」連載開始  
シリーズ累計発行部数 5,000万部突破 (5月末時点)

(TVアニメ)  
2020年10月から2021年3月放送  
金曜深夜「スーパーアニメイズム」枠史上、  
平均世帯視聴率歴代 1 位

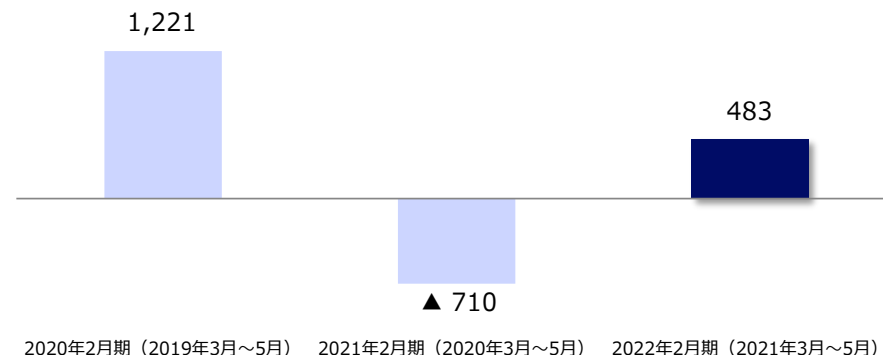
国内の主要配信プラットフォームで視聴者数1位を多数獲得し、世界100以上の国と地域でも配信・放送され人気を誇る

# セグメント別業績【演劇事業】

## 営業収入



## 営業利益



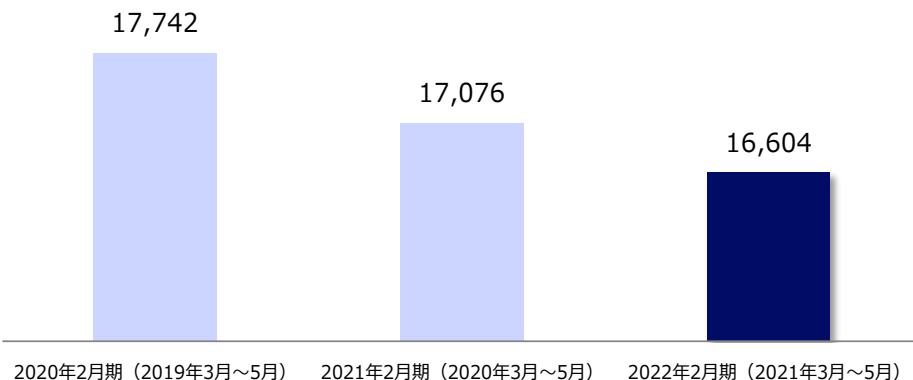
(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

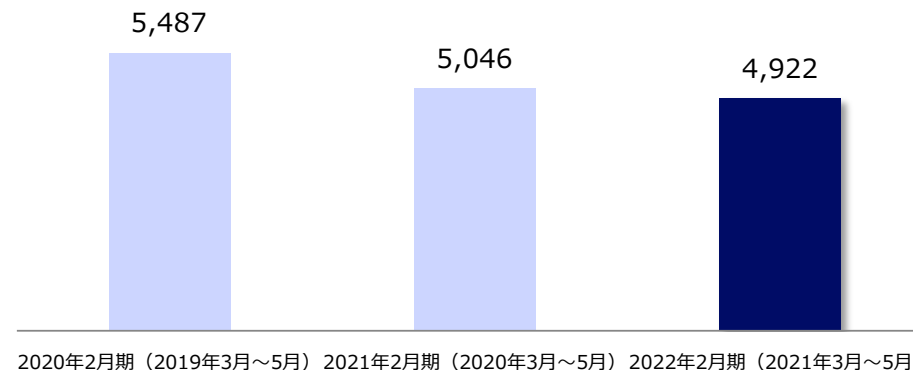
- 帝国劇場では『Endless SHOCK -Eternal-』(3月公演)、『レ・ミゼラブル』(5月公演)を、シアタークリエでは『GHOST』(3月公演)、『きみはいい人、チャーリー・ブラウン』(3月～4月公演)、『カメレオンズ・リップ』(4月公演)を、劇場の消毒や換気の強化等の感染予防策を講じながら公演を実施。
- 3度目の緊急事態宣言の発出や自治体からの要請によって、『モーツァルト!』(4月～5月公演 帝国劇場)では、4月28日から5月6日までの公演を中止。『ジャニーズ銀座2021 TOKYO EXPERIENCE』(5月公演 シアタークリエ)では、5月2日から5月11日までの公演を中止。『ブロードウェイと銃弾』(5月公演 日生劇場)では、5月10日・11日の公演を中止。
- 外部公演では、日生劇場において『ウェイトレス』(3月公演)やTBS赤坂ACTシアターにおいて『ロミオ&ジュリエット』(5月公演)を上演し、堅調に稼働。演劇事業としては、前期はほぼ全公演中止だったが、当期は一部中止となった演目はあるものの、ほとんどの公演は実施できたため大幅な増収となり、営業損益は黒字に転換。

# セグメント別業績【不動産事業】

## 営業収入



## 営業利益



(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、一時的なテナントの入れ替えや、商業施設の営業時間短縮や臨時休館（日比谷シャンテは4月25日から5月31日まで。5月22日から一部店舗では営業再開）を実施したことに伴う賃料の免除、保有する物件の入居テナントに対しても賃料減額の措置を講じたこと等もあり、減収減益。
- 道路事業では、防災・減災対策や老朽化するインフラ整備をはじめとする公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めた結果、わずかに減収減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、ホテルや劇場等、商業施設の経済活動が再開し、受注回復の動きがみられるものの、受注案件の延期や減額に応じたため減収。コストコントロールに努めた結果、増益。

# 業績・配当予想

## ■ 2022年2月期連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
2022年2月期（予想）	<b>214,000</b>	<b>32,000</b>	<b>33,500</b>	<b>20,500</b>	<b>115.39</b>
前期実績増減率	11.5% <span style="color: red;">↗</span>	42.6% <span style="color: red;">↗</span>	38.5% <span style="color: red;">↗</span>	39.6% <span style="color: red;">↗</span>	
（ご参考） 2021年2月期実績	191,948	22,447	24,195	14,688	82.54

※直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

## ■ 配当予想

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期(予想)	—	<b>17.50</b>	—	<b>17.50</b>	<b>35.00</b>
（ご参考） 2021年2月期実績	—	17.50	—	17.50	35.00

※直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。  
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ  
東宝株式会社  
総務部 広報・IR室  
TEL 03-3591-1303